

402009

昭和十年

十一冊ノ内

其ノ五

滿蒙大日記

陸軍省

国立公文書館

分類

配架番号

51

5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

156

昭和九年三月

北支那  
支滿洲國視察報告

工兵第四大隊中隊長陸軍工兵大尉 塩見久吉

目次

- 一 緒言
- 二 北支問題
- 三 北鉄問題
- 四 匪賊討伐
- 五 滿洲國軍隊
- 六 駐滿軍隊ノ志氣
- 七 滿洲國移住ノ獎勵
- 八 國語ノ獎勵ト他國語ノ研究
- 九 將來戰ニ應ズル國軍練成
- 十 結言

一回ノ視察ハ其範圍大ニシテ加之其大部ノ  
 軍部ノ要路者ニ就キ聞ク所ヲ多ク從テ報告ノ要  
 旨實情ニ遠サカルノ恨ミナヤラ懼ル  
 然レ共見聞セシ所々極メテ多岐ナルヲ以テ茲ニハ所感  
 ノ大綱ヲ記述シ報告セントス

二 北支問題

日支親善ノ傾向ハ黃郛、何應欽等ノ努力ニ依リ逐  
 次親日ニ傾キツ、アリ、之ヲ例セハ

一 支那軍將兵ノ吾等ニ對スル態度敬虔ニシテ特ニ  
 兵中最多嚴肅ナル敬禮ヲナセシハ一行ノ驚愕セ  
 シ所ニシテ本旅行中日本兵ト雖カ、ル敬禮ヲナセ  
 シヲ見受ケサリキ

二 一般民衆ノ吾等ニ對スル態度モ極メテ好意約

友交的ニシテ尊敬ノ念アルヲ見受ケタリ。

是ヲ軍報着用ニテ市内徘徊ノ危険ナリシ往年ニ比スレハ隔世ノ感アリ

3. 最近日本語ヲ修得セントスル傾向アリテ特ニ各大學ニ於テ然ル由ナリ。勿論就職其他自己本位ニ基クモノヲシトハ言ヘ日本語ヲ研究シ日本ニ對スル知識ヲ得ルコトハ延テハ日本トノ意志疎通ヲ計リ、兩國親善ニ裨益スル所大ナルモノアラン

北支政權ヲ如斯親日ニ向ヒツ、アルモ遲々トシテ進展セザルハ彼等ニ實力無キ慮ニシテ吾人ハ彼等ノ度情ヲ察シ彼等ノ腕ヲ揮ヒ得ル如ク指導援助セザルヘカラス

然ルニ思慮ナヤ邦人ハ勿論往々ニシテ軍部ノ一部ニ於テスナリ北支支を遠キラス滿洲國同様に結果ニ附ル

セリ、如ク思慮ナヤ邦人ハ勿論往々ニシテ軍部ノ一部ニ於テスナリ北支支を遠キラス滿洲國同様に結果ニ附ル

折角日本ノ真意ヲ知リテ平靜ニ歸シ、親日ニ向ヒツ、北支ヲ刺戟シ反滿抗日ヲ持續セシムルカ如キハ軍事上經濟上又國際上最モ不利トスル所ナリ

### 三、北鉄問題

日蘇兩國干戈ヲ交ヘタル時ハ北鉄問題ノ如キハ勿論議論ノ限リニアラス

然レ共吾人ハ事ヲ好ムモノニアラス外交的工工作ニ依リ諸事平穩ニ解決スルヲ希望シ又努力セザルヘカラス、

然リト雖現下ノ北鉄問題ハ速ニ解決シ滿洲國ノ領有トシ軍事經濟ノ不便不利ヲ削除セザルヘカラス、即チ

1. 軍事方面ヨリ見テ

軍事輸送ニ方リテハ一々協定ヲ要スルノミナリス、

是カ協定ニ方リテモ軍部ノ不利益多キノミナラス  
交渉進捗ス線區ノ諸官ハホトク困却セル有  
標ナリ

又軍部ノ秘密ノ往々ニシテ漏洩スルノミナラス軍事  
工作ノ手ニ取ルル如ク先方ニ知ル現下ノ情況ハ一日モ  
觀過スヘカラス宜ニク速ニ滿鉄經營トナシ蘇聯ノ  
諸吏員ヲ解雇スルヲ要ス

二 經濟方面ヨリ見テ

運行ノ不確實ナル貨銀ノ高キ又列車不潔ニシテ  
構造ノ不備ナル等故擧ニ暇アラス 速ニ之ヲ收領  
シ軍事民衆ノ不便ヲ除去スルヲ要ス  
價額極昂等ニ就キ考慮ヲ要スヘキ点アランモ 現下  
ノ情況一日モ遷延ヲ許ササルカ如キ感ヲ深クセリ

四 匪賊討伐ニ就テ

衆賊聯合帝ナク又據報ト述ケ足ノ早キ匪賊ヲ相手ノ戰  
闘ニハ冬ハ寒氣ト戰ヒ夏ハ炎熱ト濕地ト戰ヒ加之物資  
ノ補給ノ辛苦ヲ勞シ其討伐ノ困難ナリシ事ハ周知ノ事  
ニシテ察スルニ餘ナリ 然レ共今少シク左ノ諸点ニ留  
意セシナハ尙少數ノ犠牲ニテ足りシニ非スヤノ感アリ  
即チ

一 功名心ニカテレ功ヲ急セク

窮鼠猫ヲ咬ムノ古語ノ例ニ殘リス之ヲ急ニ襲シ  
逃ケ場ヲ失ハシムル時ハ反テ思ハサル損害ヲ受クルコト  
アリ然ルニ敵ヲ輕視シ偵察モ行ハスニ急ニ襲レ田心  
ハス不覺ヲトルニ至ル(然レ共急襲ハ匪賊殲滅ニ最  
モ緊要ナル事ニ留意スルヲ要ス)

二 匪賊討伐ニ帝ニ其退路ヲ閉ケ置クヲ要ス

前述ノ如ク逃ケ場ヲ失ハシムル事ハ不可ニシテ帝ニ一

方ニ其退路ヲ設ケ置キ然ル後急襲スルノ要アリ  
然ルニ往々ニテ退路ヲ設クルコトナク急襲スルヲ以テ  
第一項ノ如キ損害ヲ受クルニ至ルモノナリ

3. 糧ヲ現地ニ得ル如ク努ムルヲ要ス  
軍隊ノ最モ苦痛トスル所ハ給養ニシテ、給養機關ノ  
悪メ部隊ノ行動ヲ阻害ス、又兵力ノ一部ヲモ割クノ止  
ムナキ状態ナリ、然ルニ之ヲ現地ニテ得ル如クセハ行動  
上大ナル便益アリ、而シテ之ヲ研究スル時ハ其實地比  
較的容易ナリ、即チ、

土民ハ常ニ相當ノ粟、高粱、ウドン粉等ヲ貯藏セ  
ルモノミナラス、鶏、豚等モイテ物賤ハ豊富ナリ而シ  
テ滿洲國人ハ調理法ニ長セルヲ以テ之等ヲ有利ニ使  
用セ給養ニ事欲クコトナレ  
然トモ土民ハ物賤ヲ販賣スルヲ以テ相當價額ヲ以

チ之ヲ購買シ支拂フナリ如ク巧ニ指導スルノ要アリ(初メハ少量  
ヲ購買シ支拂フナリシタル後逐次増大スルヲ要ス)

右ノ外討伐ニ際シテハ種々注意シ考慮ヲ要スヘキ点アリ  
シモ其一、ニツカ述ツレハ左ノ如シ  
1. 滿洲國軍、蒙古軍ヲ巧ニ使用シ道案内、情報蒐  
集連絡、警戒、物資偵察等ノ雜役ニ使用スルヲ可  
トス

又逐次向上シツ、アル同國軍隊ヲ今回、如ク單獨  
ニテ討伐セシムルモノナラン  
2. 土民ノ詭辯ニ乘セラレ無辜ノ良民ヲ殺戮セサルコト  
五. 滿洲國軍隊

滿洲國軍隊ハ皇軍幹部ノ指導ヨリ逐次改善進歩  
シツ、アルハ欣快ニ耐ヘサル所ナルモ、幹部以下ハ元匪賊ニシテ  
之ヲ如何ナル程度ニ進歩改善セシメ、一旦緩急アル場合

如何ナル所ニ使用スヘキヤニツキ研究スル時甚シキ不安ヲ感スルモノアリ、即チ

現下ノ情況止ムテクノ皇軍ノ威力ニ脅レテ服従シアルモ皇軍ノ苦境ニ立テシ場合、反旗ヲ翻スニ非サルヤ、飼犬ニ手ヲ咀マル、事ナキヤ等案スル者甚シトセス

右ニ関シテハ指導上最モ考慮ヲ要スヘキ点ニシテ吾人ハ左ノ件ニ特ニ留意スル要アリト信ス

1. 素質ノ向上ニ就テ

目下ノ所匪賊上リニテ字モ讀メサル情態ナル事モ逐次改善シテ徵兵ノ制度トナスヲ要ス

2.

精神教育ニ重点ヲ置キ滿洲國ノ生立チニ鑑ミ日滿合作ノ必要ナル所以ヲ眞ニ理解セシム

3.

日滿軍人ノ融和ニ就テ

滿洲國軍人ニ對シテ日本將校ト知ラスレテ之ヲ敵指セントスル皇軍下士官等モ甚カクサレ由ナルカ、事ハ此細ナリト雖精神上ノ惡感情ヲ起サシムルコトハ決シテ小ナルモノニ非サルナリ、ハナキ下士官兵或ハ憲兵ハ等カ優越感ヲ以テ傍若無人ノ言動ヲナスハ甚々宜敷カラス、而シテ其一言一動ハ日滿軍隊ノ融和ニ影響スル所大ナリト信ス

故ニ技術ノ高下ハ別トシ階級ノ上下ニ依リ嚴肅ナル敬禮ヲ行ヒ侮蔑的言動ヲナサル如ク指導スルノ要アリ

此ノ件ニ關シテハ軍人ノミナラス特ニ常ニ民衆ト接觸スル邦人ノ留意スヘキ点ナリト信ス

4.

優秀ナル日本幹部ヲ多數配置シ戰術技術文精神方面ニ卓越セル技能ニ驚嘆心服セシムルト共ニ滿洲國軍幹部ト融和一致(特ニ進級給與等ニ





2. 慰安法ヲ講スルコトハ駐滿部隊ニ於テ最モ緊要ナリ  
折角守備ニ討伐ニ重大指令ヲ果シテ歸營セ  
ルモ之ニ對スル物質的慰安ナク待ツモノハ癡屋ノ  
如キ古兵營ノミニテハ軍心に弛ミ易ク荒ミ易カラ  
スヤ又滿鉄其他ノ大會社々員ニ比シ甚シキ貧弱  
ナル給與ヲ受ケアル幹部ハ物質ノ高騰ト相俟テ相  
當困難ニ居ル者アルヤニ聞及ヘリ

3. 熱シ易ク冷メ易キハ我國民ノ常ニシテ事變ノ當初  
ヨリ慰問品慰問使等々東奔西走席ノ温ムル暇ナ  
キ兵ニ送ラレシカ業漸ク成リテ稍々寂寥ヲ感スル  
ニ至リ國民一般モ之ヲ顧サルニ至リシニ非サルヤノ感  
アリ

要スルニ目下ノ時期カ夫レ氣振興ノ最モ大ナル時ト信ス  
故ニ諸施設ヲ完備シ指揮官ハ部下ヲ鼓舞シ以テ

心ヲ下シ倦マレトサル如ク努力カセサルヘカラス

七 滿洲國移住ノ獎勵

滿洲國ヘノ移住ノ緊要ナルコトハ輻々ヲ西ヤセサル所ナルモ往  
々ニシテ何等調査研究スルコトナクシテ渡滿シ失敗スル者  
アルハ全人等ノ爲惜ム所ナリ然レ共彼等ハ一個人ノミノ損失ニ  
テ足ルモ意志薄弱ナル者或ハ無賴ノ徒ノ渡滿スルハ之ヲ防  
カサルヘカラス 優越感ヲ以テ暴風ヲ振ヒ或ハ「モヒ」空賣  
ヲナシ或ハ博徒ノ宿舍ヲナス等 波網ヲ潜リ無辜ノ民ヲ  
苦シムル等はナリ

特ニ是等ノ徒ノ豫東附近ニ多キハ日支親善上ヨリ見  
ルモ面白カラサル現象ニシテ甚シキハ日本軍ノ陰ニ隱テ  
暴威ヲ振フト聞クニ至リテハ許シ難キ現象ト云ハサル  
ヘカラス

之等徒ハ日滿或ハ日支親善ヲ阻害スルコト大ナルハカノ

朝鮮ニ於ケル万歳騒キニ於ケル一部民衆ノ言ニ徴スルモ  
明カナリ。

如何ニ當事者カ善政ヲ布キ民ヲ善導セントスルモ思慮  
ナキ一部人モ行動カ一般民衆ノ反感ヲカヒ進歩改善ヲ  
阻害スルニ至ル

是等徒輩ノ入國ヲ禁止スルノ要アリト信ス

### 八 國語ノ獎勵ト他國語ノ研究

北支ハ勿論滿洲國ニ於テモ一步旅舎ヲ出ツレハ殆ント言  
語不通ナルハ甚タ遺憾トスル所ナリ言語ノ通スルコトハ即チ  
意志ノ疎通スルコトニシテ通譯ヲ介シ或ハ動作ヲ以テ意  
志相通スルモノニアラサルナリ。吾人々速ニ彼等ニ國語ヲ修  
得セシムルノ要アリト信ス。然ルニ復滿洲人ノ多クハ滿語  
或ハ露國ノ一端ヲ知レルヲ得タトシテ彼等ニ語ニカケント  
スル者アリ先カハ和語ヲ識得タリ更ニ清語ヲ識シ得

ルカ如キハ笑止ノ至リナリ勿論俄ニ文達ナル如キ俄等ノ語  
ヲ研究スルコトハ緊要ナルモ研究尙幼ノ使用ハ別トシテ其ハ  
他ノ場合ハ努メテ和語ヲ研究シ使用スル如ク指導スル  
ノ要アリト信ス。而シテ之カ研究ハ向上方茲トシテ雇  
傭人ハ官吏ヨリ婢奴ニ至ル迄和語ヲ知ル者ヲ高給ニテ

雇傭スル如クシ和語ヲ知ラサル者ハ滿洲國ニテハ支身出  
世出表サルノ憾念ヲ深クセシムルカ如キ其一例ナリ

然ルニ天津租界等ニ於テハ日本ノ雇傭セル交通巡查  
ノ如キハ其要領ヲ習得スルヤ給料高キ他ノ租界ニ轉ス  
ルカ如キ又在滿日本高官等ニテ傭人(コック等)ニ滿語  
露語ニテ對話シ得々タル如キ共ニ日本文化ヲ謳歌ス  
ル如ク指導スルノ着意ヲ欠ケルモノナラサルヤヲ疑フモノナ  
リ

然レトモ軍事上、經濟上、治安維持上其他各種ノ方

面ヨリ彼等ノ言葉ヲ研究スルコトモ又緊要ニシテ吾人ハ  
滿洲語ハ勿論露語蒙古語ヲ研究シ將來作戰ノ  
資ニ備フルヲ要ス

要ハ指導上研究上ノ使ヒ分ケヲ考慮スルニアリ  
某騎兵旅團ノ如キカ蒙古語ヲ研究セラレアル由ヲ聞

キ國軍將來ノ為メ最モ當ヲ得タルモノト信ス

九 將來戰ニ應スル國軍ノ練成

滿洲國ノ地形氣象及某軍ノ編成裝備並ニ防禦  
陣地ノ編成等ヲ考フル時國軍現下ノ練成ニ方ノ尚  
研究工夫ヲ要スルト莫クナカラスト信ス

滿洲國ハ東ハ森林地帯多ク北ハ小起床地ニシテ西方  
(大興安嶺以西)ハ平坦開闢地ナルモ小起床地ト雖日  
本ノ如ク凹凸諸ヶ峯在シ死角速散地多キ地形ニ  
非ラズシテ一般ニ滑カシ

小官ノ視察セル所ハ一般ニ平坦地ナリシテ以テ是ノ險ヲ  
主トシテ工兵的見地ヨリノ所見ヲ述ヘントス  
ノ行軍力ノ養育ト敏速ナル行動

數十軒展望ニ得ル平坦開闢地ナルヲ以テ敵ノ豎  
視下(砲彈ハ届カサレモ)或ハ夜間ニ於テ兵力ヲ動カサ  
サルヘカラス 之カ爲メニ極力行軍力ヲ要求シ敏速  
ナル行動ヲナサルヘカラス 冬期防寒具着用等ノ  
場合ニ於テハ特ニ然リトス

2. 方向維持並相互間ノ連絡

平坦開闢ニシテ晝間ト異方向ノ維持ニ困難ヲ来  
スユトナシトセス 是等ニ関シ創意工夫ヲ要スルト共  
ニ大地域ニ展開セル部隊相互間ノ連絡等ニモ工  
夫ヲ要ス

3. 飛行機ノ活用

對砲行機戰鬪地上戰鬪ニ加入ハ勿論敵兵力ノ移動特ニ機械化兵團ノ行動等ニ關スル偵察ニ緊要カクヘカラサルモノニシテ茲ニ於テ初メテ地上部隊ノ對戰車戰鬪準備ヲ行フモノニ非ラスヤト信ス

4 煙ノ利用  
遮蔽物ナキ開闢地ニ於テハ煙ヲ利用シ我カ企圖ヲ秘匿スルノ必要ヲ痛感セリ

5 濕地通過設備  
平素訓練セル通過設備ノ如キハ規模小ニシテ到底現地ノ要求ニ應ジ得ヘキモアラス宜シク現地附近ニテ徵集シ得ル資材ヲ以テ大規模ノ通過設備ヲテス如ク資材並ニ運搬器材ノ徵集等ニツキ研完工夫スルノ要アリ

6 對戰車戰鬪  
平素訓練セル所ハ唯一ノ機型戰車カ極メテ復雜ナル地形ヲ前進スルニ對シ之ヲ攻撃スル練習ヲナスアルモ是ハ一ツノ基礎的訓練ナラハ可ナルモ吾等ノ戰場ニ於テハ平坦地ニ於テ數十台ノ戰車カ突進スル場合ヲ考慮シ之ニ對スル訓練ヲ實施スルヲ要ス而シテ之カ精神的訓練モ亦極メテ緊要ナルコト、信ス

7 側防機能ノ破壞制圧  
前項ト同様平坦地ニ於テ如何ニ實施スヘキヤヲ研究セサルヘカラス

尚其他研究工夫スヘキ点多クランモ現下ノ教育カ餘リ錯雜セル場地形ニ於テ實施セラレ將來戰場ノ地形ト甚シキ相違アルヲ感シ斯クテハ此ノ教育モ効果少キヲ感シ茲ニ教養セリ

補任  
主任  
衛生  
衛生  
衛生

要スルニ記述スル所散漫ニシテ其所論モ當ヲ失スルモ  
ノナキニ非スト雖滿洲國ノ一部タリトモ認識スルヲ得タル  
ハ最モ欣快トスル所ニシテ百聞一見ニシカスノ古語ノ如ク  
想像ヲ裏切ルモノ多ク其ノ發見ノ顯著ナル驚愕ニ價  
ス將来モ時々カハル機會ヲ與ヘ滿洲國ノ實情ヲ廣  
ク認識セシムルト共ニ軍隊散放六月ニ貢獻アラシメラレシコ  
トヲ切望ス

十 結 言

獨立派以第士派國將校商相連署職員表送付ノ件直原  
昭和拾年貳月廿七日 獨立混成第十一旅團司令 部  
陸軍省 副官 部 部 中  
首題ノ件別紙ノ通り送付ス

關係諸隊ニ送付セラレ度

主要區隊部次ノ配布

陸軍省	衛生部	陸軍省	衛生部
陸軍省	衛生部	陸軍省	衛生部
陸軍省	衛生部	陸軍省	衛生部
陸軍省	衛生部	陸軍省	衛生部

陸軍省 衛生部  
10.4.25  
10.3.9  
36  
37  
10  
10